

司 会 松 永 雅 範 (長崎県西海町教育委員会社会教育主事)  
芳 野 三津子 (佐賀県東松浦郡相知町立相知中学校教諭)

1. 「もちがせ流しびなマラニック大会」を核とした  
生涯学習の町づくり 14:15~14:40

中 尾 智 則《鳥取県》用瀬町教育委員会社会教育主事

今年で9回目を迎えるマラニック(マラソン+ピクニック)大会。

走ってもよし、歩いてもよしという気軽さと、健康相談・栄養講座、山菜弁当等の相乗効果で、1500人(人口は4700人)を超える参加となった。大会運営にあたり、各課の連携、ボランティアの協力など「連携のとれた町づくり」の推進を目指している。

2. 土佐絵金歌舞伎傳承会の起こりとねらい 14:40~15:05

横 矢 佐 代《高知県》土佐絵金歌舞伎傳承会事務局長

赤岡町は藩政時代に香南の商都として栄えたため、幕末の絵師広瀬金蔵(絵金はこの略称)の芝居絵が多く保存されている。この屏風絵に描かれている題材を取り上げ、住民が演じることによって、かつての生活文化を掘り起こし傳承する。それと共に、新しい文化創造の刺激剤として「文化の香り高いまち」づくりをねらっている。

ティー・ブレイク 15:05~15:40

3. 「遊学の郷加茂」の生涯スポーツの展開  
~国際チャレンジデーへの町民参加~ 15:40~16:05

吾 郷 和 宏《島根県》加茂町教育委員会社会教育主事

人口7千人弱の加茂町は、生涯スポーツの振興に力を入れている。

人口規模がほぼ同じ市町村間で、一定時間内に運動に参加した住民の参加率を競う「国際チャレンジデー」のイベントには、1993年に日本で初めて参加した。昨年は町民にも定着し、7割以上の参加を得ている。国際的な臨場感の中で遊び心も盛り込み楽しんでいる。

4. 「さざんか塾」バンブーオーケストラの企画と運営  
~地元企業との協力による地域文化づくり~ 16:05~16:30

多 良 淳 二《佐賀県》さざんか塾副塾長

地域に根付いた伝統芸能がなかったため、自分たちの手で地元に着したものを作ろうと企画。竹材を使った手作り楽器の演奏発表を行ったが、地元企業の佐賀銀行との協力により成功を収めた。今年は、焔博サテライト会場での発表を目標に新メンバーを結成、楽器作りから取り組んでいるが、継続させることが課題である。

5. 総 括 討 論 16:30~17:00

司 会 浜 田 満 明 (島根県教育庁生涯学習課地域学習振興班長)  
尾 崎 寿 子 (高知県吾川郡伊野町立公民館主幹)

1. 須恵町ボランティア派遣事業の取り組み 14:15~14:40  
～学習成果の活用とコミュニティづくり～

大 場 仁《福岡県》須恵町社会教育委員代表

須恵町では、思いやりや助け合いがあるまちづくりを目指して基盤整備を進めている。本事業は、地域に人と人とのふれあいの場をつくり、仲間意識と連帯感を培い、コミュニティづくりに寄与するため、学習を積み重ねたボランティアを学校や地域に派遣し、子どもや地域住民の学習活動に資することを目的として実施している。

2. まち角の交流からまちづくりへ 14:40~15:05  
～「ふれあいサークルつぼみ」がめざすもの～

上 田 容 子《高知県》有限会社 上田微生物 役員

独身の男女を心配した親たちが出会いの場を提供するため、イベントを始めて4年。その中には「須崎川瀬太鼓」の様に独立組織にまで成長したものもある。これらの活動が核となり、地域の女性団体による女性ネットワークが築かれた。そこからまた、新たな活動が生まれつつある。小さなきっかけが大きな渦になろうとしている。

ティー・ブレイク 15:05~15:40

3. 「ボカシあえ」で広がる生ゴミリサイクル 15:40~16:05

穂 田 悦 子《大分県》国見町婦人会

①EMボカシと私たちとの出会い(捨てるゴミを有機肥料に変え野菜作りをして健康につなげる。)②環境にも人にもやさしい行政をめざして協力。③ボカシを作ることでEM菌の浄化作用も研究している。④ボカシ肥料をつくりトマト等の生産が進んでいる。

4. 郷土の誇り「通潤橋」案内ボランティアの役割 16:05~16:30  
～学習の成果と活用～

飯 星 時 春《熊本県》矢部町老人大学大学院

通潤橋は、不毛の「白糸大地」を潤し、そこに住む人々の安らかな生活を願う先人が取り組んだ一大事業であった。その完成には、「少しでも高く水を送りたい」「絶対に壊れない橋を造りたい」という願いを実現するために、様々な工法の研究や、多くの先人たちの汗や苦労があった。

5. 総 括 討 論 16:30~17:00

司 会 高 杉 良 知 (広島県教育委員会社会教育課主査兼振興係長)  
吉 田 美 知 (熊本県錦町教育委員会社会教育課生涯学習係長)

1. 「夢いらんかね」ふれあい交差する出夢出夢虫の里「夢の音村」の挑戦 14:15~14:40  
~若い地方の力を育む青年活動の実践と考察~

河 野 文 影 《島根県》金城町町民福祉課係長

アマチュアバンドが町民を巻き込み始めた。コンサートをこなす傍ら、町内の照明、音響を一手に引き受け、ついには、2万ヘクタールの森林を切り開き「夢の音村」を自らの手で建設。今では、町全体の活動にまで発展し、町づくりの活力となっている。29年間の活動の経過と取り組み、成果、今後の展望について発表する。

2. 雪合戦でまちおこし~冬の風物詩づくりの課題~ 14:40~15:05

武 田 恭 二 《鳥取県》若桜町教育委員会社会教育主事

昨年のデモンストレーション大会を経て、今年2月に規模を大きくして「雪合戦大会」に取り組んだ。44チームが参加し、非常に盛り上がった。今後の課題としては、競技役員の養成も含めた組織の充実である。町民の意識も高まっているので、「雪合戦大会」を若桜町の冬の風物詩にしていきたい。

ティー・ブレイク ----- 15:05~15:40

3. 「サザンナイト・オートシネマ・イン田代」の成果と課題 15:40~16:05  
~青年有志のまちづくりプロジェクト奮闘記~

川 前 康 博 《鹿児島県》チーム・プロジェクトF会長

田代町では、姉妹町の与論町に負けない青年の活動性と、青年有志を募って「チームプロジェクトF」を結成、活動を開始した。そのイベントの一つ『サザンナイト・オートシネマ』の企画・運営、成果を中心に、その他のイベント『ふるさとの巨匠展』『どんこびっ祭』も紹介しながら、今後の課題についても考えたい。

4. 水すましの泳ぐまち~川の再生への取り組みと問題点~ 16:05~16:30

佐 藤 春 世 《大分県》湯布院の河川と水を考える会副会長

料理の学習を進めるうちに、健康と水とは切れない関係にあることを認識。月1回の川の清掃の傍ら、廃油を使っての石鹸作りに取り組み始める。少しずつ、廃油を提供してくれる人、洗剤を買ってくれる人との輪が広がっている。他県のグループとの交流も始まっている。経緯、活動内容、課題について検討する。

5. 総 括 討 論 16:30~17:00

司 会 山 崎 元 靖 (高知県須崎市教育委員会社会教育課長)  
光 田 紀美子 (佐賀県教育庁生涯学習課指導主事)

## 1. 海田町生涯学習基本構想の策定を通して

14:15~14:40

中 村 弘 市《広島県》海田町教育委員会派遣社会教育主事

町民の手による、町民のための生涯学習基本構想ができあがった。

作成委員は公民館受講生代表、教育関係者、企業に働く人との多様な顔ぶれ。行政はオブザーバーとして参加し、ヘルパーとしての役割に従事するなど視点の転換がみられる。町民による作成に至るまでの経緯、取り組みを紹介し、今後の課題、展望について検討する。

2. 市民による市民のための「させぼ・夢大学」  
～設立の経緯と現況～

14:40~15:05

近 藤 正 人《長崎県》長崎県社会教育委員 佐世保市社会教育委員長

佐世保市社会教育委員の会では、平成3年に市民大学の設立を想起し、平成4年に「させぼ・夢大学」を設立した。今では、定員150名に対し4000名を越す応募がある程に成長した。その設立の趣旨、設立までの経緯、現況、これからの市民大学が目指すもの、そして生涯学習の今後のあり方についての私見を述べる。

## ティー・ブレイク

15:40~16:05

3. 沖縄市青年連絡協議会の活動 コザネットワーク  
: 夢は“かりゆし”と共に

15:40~16:05

新 里 建 二《沖縄県》合名会社 新里酒造

沖縄市にある九つの青年部を一つにする“コザネットワーク”。

それぞれ独自の活動を行いながら、その一方で「沖縄市を語る青年大ぼら吹き大会」等九つの青年部が一丸となり、ユニークな活動を生み出し始めている。青年達が自分たちの町の未来を考え、動き出した。その経過と取り組み、成果と展望について発表する。

4. 団報「<sup>おもと</sup>万年青」を核に町づくりを進める壮年団活動

16:05~16:30

津 江 治 士《大分県》前津江村社会教育指導員 (万年青編集長)

区画整理で誕生した町を、「住み良い町・住みたくなる町」にしようと壮年団を結成。広報紙『万年青』(おもと)を発行しているが、縮刷版も誕生した。生涯学習の視点からも、広報紙の果たす役割の大切さを感じている。その広報紙を核として生まれたものには、おはよう掃除、子どもみこし、盆踊り、公園整備、文化祭等がある。

## 5. 総 括 討 論

16:30~17:00

司 会 池 田 幸 春 (熊本県教育庁社会教育課社会教育主事)  
北 原 コズエ (福岡県小郡市教育委員会生涯学習係長)

1. スカifesta “よしまつ” 9:00~9:25  
~パラグライダーによるまちおこしの経過と取り組み~

福 島 勝 男《鹿児島県》吉松町役場企画課長

吉松町は、日本でもトップクラスのパラグライダー・フライトエリアとして脚光を浴びているが、これをまちおこしに活用しようと施設の整備を進めている。同時に、南九州中部地域からのイメージ発信として、空をテーマとしたフェスタを1994年より開催している。その経過と取り組みを紹介し、今後のあり方を考える。

2. 「愛とふれあいのまち 七夕の里 おごおり」 9:25~9:50  
~まちづくりのための連携体制づくり~

野 田 眞 良《福岡県》小郡市教育委員会生涯学習課課長

生涯学習の推進は、行政的には他部局との連携が基本となる。教育委員会内のみではなく、他の官公署、諸団体との連携を図ることなしに、生涯学習社会の実現はない。当市では、このような観点に立ち警察・消防署・自衛隊等とも連携して、人づくり、人間関係づくりを基底に据えた生涯学習のまちづくりを推進している。

ティー・ブレイク ----- 9:50~10:25

3. さくら会5年間の軌跡と今後の展望 10:25~10:50  
~コーラスグループから「いきいき桜山ふれあいまつり」まで~

松 島 眞智子《熊本県》さくら会会長

コーラスグループとして活動していた「さくら会」は、町の中学校が荒れた時期に、子ども達にとって住み良い環境をつくろうと、まちづくりに関わり始めた。会が始めた「まつり」は、今では町の祭りにまで発展し、まちづくりの力となっている。その活動の経緯と内容、成果と今後の展望について発表したい。

4. 「卑弥呼」の活動報告 10:50~11:15  
~サークル活動を通しての生涯学習への取り組み~

伊 藤 美智代《福岡県》九州女子大学生涯学習研究会「卑弥呼」  
大 淵 麻衣子《福岡県》九州女子大学生涯学習研究会「卑弥呼」

九州女子大学の生涯学習研究サークル「卑弥呼」の一年間の活動を発表する。「卑弥呼」の様々な活動をOHPを使って、「西日本生涯学習フォーラム」や校外活動の様子を中心に説明。また、この一年間で、地域との交流によって何を得ることができたのか、生涯学習やまちづくりに関する認識の変化を述べる。

5. 総 括 討 論 11:15~11:40

\* 閉会式—総会(4階大研修室) 11:50~12:20

司 会 上 田 博 司 (熊本県立教育センター主幹)

田 熊 裕 子 (福岡県粕屋郡粕屋町立粕屋西小学校教頭)

### 1. 広島県リカレント教育推進事業 9:00~9:25

～市町村と大学等との連携支援体制づくりの実際～

新 田 憲 章《広島県》広島県教育委員会社会教育課社会教育主事

広島県では、「リカレント教育推進協議会」を設置し、市町村、大学等の高等教育機関及び民間企業の関係者が幅広く連携・協力を行い、地域や住民のニーズに対応した体系的・継続的な学習機会を提供する方策について協議している。具体的には、啓発活動、学習情報提供事業、学習コースの設置、相談事業等を実施している。

### 2. 宮崎市における生涯学習の取り組み 9:25~9:50

大 川 哲《宮崎県》宮崎市教育委員会社会教育課主査 (社会教育主事)

宮崎市は、昭和61年に策定した第2次宮崎市総合計画に生涯学習の考え方を打ち出し、昭和63年度には、生涯学習モデル市の指定を受け、平成2年度には生涯学習推進基本計画の策定と推進本部を設置するなど、比較的早い時期に生涯学習推進に取り組んできた。

その概要、現状と課題等について発表する。

### ティー・ブレイク 9:50~10:25

### 3. 生涯学習を「まちづくり」の一環としてとらえた組織づくり 10:25~10:50

明 末 礼 式《山口県》玖珂町教育委員会派遣社会教育主事

本町では、生涯学習を「まちづくり事業」の一環として、すなわち行政施策の一方策ととらえて取り組んでいる。住民が、生涯を通じて心豊かに生活できるように努力することが行政の責務である。

そのためには、行政の各セクションが、ハード・ソフト両面で合理的に連携していくシステムづくりが重要であると考えます。

### 4. 学社連携による生涯学習のまちづくり 10:50~11:15

～小・中・専門学校・大学との連携事業の実際～

井 崎 高 信《宮崎県》田野町教育委員会派遣社会教育主事

田野町は、特に「学社連携事業による生涯学習のまちづくり」に力を入れてきた。この2年間に実践してきた小・中学校との連携事業(学校開放講座等)や地元の専門学校・宮崎大学の協力を得て実現できた主催事業等について述べるとともに、学社連携事業のあり方について考える。

### 5. 総 括 討 論 11:50~11:40

\* 閉会式—総会(4階大研修室) 11:50~12:20

司 会 上 野 正 一 (鹿児島県教育庁社会教育課生涯学習推進班指導主事)  
樋 田 京 子 (福岡県春日市立春日野中学校教頭)

1. 「熱血!! 青年団」～団活動活性化に向けた取り組み～ 9:00～9:25

田 代 宏 志《福岡県》粕屋町青年団団長

粕屋町青年団は6支部で構成されている。各支部の行事や地域活動への参加を通して、地域の若者にアピールしたり、新聞等の広報活動で呼びかけたりしている。メイン行事の文化祭等の活動では、団員が一丸となって取り組むことの素晴らしさや、その成果への感動、充実感によって結束が深まり、新規入団者も増えてきている。

2. 競わず楽しむ「夕やけマラソン」～本州最西端の町の試み～ 9:25～9:50

河 野 邦 彦《山口県》豊北町総務課

豊北町は、本州最西端に位置しています。夕刻になれば、四季折々の美しい夕日を拝むことができます。マラソンはとても普通の人では走れません。土曜日の夕刻、ペアで十分の一の距離4.215kmを速さを競わず、夕日を見下ろして、和気あいあいと走ります。

ティー・ブレイク 9:50～10:25

3. 託児ボランティア「わらんべの会」の活動展開  
～育て合い学び合う18年間の歩み～ 10:25～10:50

松 下 一 美《福岡県》北九州託児ボランティア「わらんべの会」会長

本会は、市が企画したボランティア養成講座の修了生を中心に、約18年前に発足した。勉強を重ね模索しながら、学習するお母さん達をお手伝いしてきた。今では、「0～100歳までの人にボランティアを」と、幼児を中心とした託児ボランティア「わらんべの会」と老人のための「ボランティアひまわり」として活動している。

4. 育児サークル「かせっ子マーチ」の企画・運営と展望  
～仲間づくりと子育て学習～ 10:50～11:15

森 留美子《佐賀県》佐賀市立兵庫小学校主事

核家族化、少子化の時代の中で、母親の孤独感やストレスを解消しようと、公民館を利用しサークル活動を始めた。約1年半が経過した現在、会員は約40名。「みんなで子育て」を合い言葉に仲間づくりを進めている。また、現在の子育てについても学ぼうと、家庭教育学級を取り込んだり、年4回の講演会を開催している。

5. 総 括 討 論 11:15～11:40

\* 閉会式－総会(4階大研修室) 11:50～12:20

司 会 仲 里 清 義 (沖縄県教育庁生涯学習振興課主任社会教育主事)  
浦 本 陽 子 (福岡県立社会教育総合センター社会教育主事)

1. 地域に根ざしたボランティア活動の取り組みと成果 9:00~9:25  
~気づき・考え・実践する子どもの育成~

櫻 田 京 子《熊本県》牛深市立山之浦小学校教頭

本校では、「地域美化・福祉の心を根底においた活動」を通して地域に根ざしたボランティア活動をめざそうと取り組んでいる。主活動として、日曜日の道掃除、花いっぱい運動の一環としての一家一鉢運動、老人ホームへのふれあい訪問などを行っている。その結果、地域との結びつきが深まり、子どもにも成長が見えつつある。

2. ちびっ子クッキングを通じた青少年の育成 9:25~9:50

後 藤 美智江《福岡県》稲築町漆生南部婦人会会長

学校週5日制導入を踏まえ、町婦人会が取り組んでいる事業で、小学生を対象に、主として第2土曜日の午前中に実施している。単なるクッキング教室で終わるのではなく、子どもの主体性を尊重しながら家庭での実践へとつなぐ工夫や、紙芝居などのプログラム、公民館や学校と連携した広報・参加募集活動を行っている。

ティー・ブレイク ----- 9:50~10:25

3. 5・6年生「移動教室」の試み 10:25~10:50  
~青年の家の利用と学習の成果~

坂 本 幹 彦《熊本県》姫戸町立牟田小学校校長

学習生活の場を学校から青年の家に移し、5日間親元を離れて自分たちで生活する中で、自主性や協調性を育てるきっかけをつくらうとする試みである。お菓子、テレビ、マンガ、ゲーム等と離れ、午前中は時間割通りの学習、午後は青年の家の施設をフルに活用した活動を行なう。5日間で子どもは協力することを学んでいく。

4. 「障害」児と「健常」者が地域の中で共に生きるための 10:50~11:15  
支援活動拠点「たんぼぼの家」の建設

船 津 静 哉《佐賀県》多久市立多久東部小学校教諭

「障害」者と「健常」者が地域の中でともに生きるための支援活動拠点である「たんぼぼの家」は、建設費・資金をはじめとして数多くのボランティアに支えられ建設された。地域での「共生」をテーマとした活動に理解が得られた結果、施設は充実してきたと思われる。さらなる理解のための活動と支援活動を続けたい。

5. 総 括 討 論 11:15~11:40

\* 閉会式—総会(4階大研修室) 11:50~12:20